

船員の仕事とそのやりがいについて講話

～ 荒川区立第三中学校「校内ハローワーク」への協力 ～

当協会は、2008年7月に人材確保タスクフォースを設置し、優秀な日本人船員（海技者）確保のための様々な活動を行っている。その一環として、10月8日(土)に荒川区立第三中学校（荒川三中）がキャリア教育の一環として実施した「校内ハローワーク」に、講師として商船三井の吉村厚夫船長を派遣した。

講演風景



荒川三中の校内ハローワークは、進路・生き方学習の位置付けで多様な職業の方々（例年 30 職種程度）を講師に招き、生徒に「自分の行き方」について考えるきっかけを作ることを狙いとした行事で、同校は、平成 13 年度からこの取り組みを実施している。

今年度の校内ハローワークには、役者、新聞記者、芸能マネージャー、警察官、看護師、パティシエ、犬の訓練士、キャビンアテンダント、漫画家、銀行員等、32 職種の講師が招かれ、全校生約 360 名と近隣の小学生がそれぞれの講座に分かれて聴講した。なお、海運業界に講師の招請があったのは今回が初めて。

吉村船長の講座(3 回に分けて実施)には延べ約 50 名の生徒が参加し、同船長による商船の種類や船員の仕事、船内生活に関する紹介、船員という職業のやりがいについての説明に熱心に耳を傾けていた。また、講座では、生徒から「船酔いはしない?」、「海賊に襲われた経験は?」、「海で行き先が分からなくなるようなことはないの?」等、様々な質問が出され、吉村船長が一つの質問に丁寧に対応した。



商船について説明する吉村船長(正面左)



最後には体育館で全講師に対し追加の質疑

終了後、吉村船長の講座に参加した生徒からは、「第一に船や海が好きでなければ続かない仕事だと思った」、「好きだからこそ、何日間も海の上を航海できるのだなと思った」、「大きな船を自分が動かすということに“ロマン”を感じた」等の感想が寄せられ、日常的には馴染みの薄い船員という職業への関心が高まったことがうかがわれた。